

79

地域健康指標としての生命表の精度

——沖縄の出生・死亡と平均寿命の長期推移の分析例——

逢見 憲一

国立保健医療科学院生涯健康研究部

【目的】

沖縄(県)の平均寿命を長期的・定量的に分析するため、統一した方法による沖縄および全国の生命表を新たに作成する。

【方法】

1955年から2010年の沖縄および全国の生命表をChiangの方法により新たに作成した。

新たに作成した生命表(「Chiang生命表」と既存の都道府県別(地域別)生命表およびそれらに基づく平均寿命(0歳時平均余命)を比較検討した。

【資料】

国勢調査、人口動態統計および各生命表。沖縄の占領期は、第1回生命表(1955~57年)、1960年簡易生命表、1965年簡易生命表(いずれも琉球政府)。

【結果】

1. 完全生命表および簡易生命表と都道府県別生命表(全国)の比較

簡易生命表と完全生命表の平均寿命の差(簡易-完全,年)は、1955年には男0.29,女0.66であったが、1960年以降は男女とも-0.10~0.09の範囲に収まっていた。

都道府県別生命表(全国)と簡易生命表の差(都道府県-簡易)は、1955年には男-0.71,女-1.08で、1960年以降も男女とも0.20~0.30前後が多く、1975年には男0.51,女0.52であった。

2. Chiang生命表と都道府県別生命表の比較

Chiang生命表(日本人人口,「100歳以上」と都道府県別生命表の平均寿命の差は、全国で1955~85年は男が-0.18~0.38,女が-0.17~0.40の間で大きく変動していたが、1990年から2005年までは男0.03~0.07,女-0.03~0.06の範囲に収まっていた。しかし、2010年には男-0.06,女-0.15とChiang生命表が大きく下回っていた。

沖縄(1975年以降)では、1975年は男0.05,女-0.19,1980年は男0.12,女-0.03,1985年は男0.04,女-0.16と変動していたが、1990年から2005年までは男0.04~0.07,女-0.05~0.03の範囲に収まっていた。しかし、やはり2010年には男-0.25,女-0.06とChiang生命表が大きく下回っていた。

3. Chiang生命表の死亡率算出分母人口による比較

Chiang生命表(総人口)と同(日本人人口)の平均寿命の差は、すべての年次で全国は男0.05~0.11,女0.03~0.08,沖縄は男0.05~0.07,女0.01~0.04の範囲に収まっていた。

4. Chiang生命表(総人口)の最終年齢階級別比較

Chiang生命表(総人口,「100歳以上」と同(同,「95歳以上」)の平均寿命の差は、全国は男0.00~0.01,女0.00~0.05,沖縄(1975年以降)では男0.00~0.03であったが、女は0.00~0.13とやや「100歳以上」の平均寿命が大きかった。

「95歳以上」と「90歳以上」では、全国で男0.00~0.04,女0.00~0.20,沖縄(1975年以降)では男0.02~0.07の範囲に収まっていたが、女は0.07~0.30と差が大きかった。

「90歳以上」と「85歳以上」では平均寿命の差はさらに大きく、全国で男0.00~0.19,女0.01~0.61,沖縄(1955年以降)では男0.02~0.20,女0.13~0.65であった。

【考察】

1975~85年の既存の生命表は、死亡確率計算の最終年齢階級が低いため平均寿命が大きく変動したものと考えられる。生命表の新たな作成・比較には、最終年齢階級併合の影響に加え、今回は行わなかった国勢調査人口の年央人口への修正についても検討する必要がある。また、2010年および今後の生命表については、国勢調査の精度低下による影響についても考慮する必要がある。